

# 先週の回答



「あーたあー、ちよっといらして」とママの声。

「どうしてゴハンが食べられるか考えたことがあるか？」

「お箸とお茶わんがあるからでしょう」

「箸と茶わんがあっても、米がなくては食べられないだろう」

「お米は田んぼに生(は)えているでしょう」

「バカ者！生えているとは何ごとだ！あれはお百姓さんが丹精こめて汗水ながして育てるから田んぼに生えているんだ。いいかよく聞けよ」

「はい」  
「春になってタネを蒔いて、夏には汗だくになって面倒をみて、やっと秋に収穫するんだ。朝は日の出から夕方日が沈むまで一心不乱に働いて稲を育成してく

れるからおいしいゴハンがいただけるんだ」

「春夏秋の日の出から日の入りまでの天気の良い日に働きどおしだということとは、お百姓さんにとつては、冬と夜と雨の日だけが休みですね」

「それが、三余だ」

「三余？」

「一年のうち冬、日の沈んだ夜、雨の日は、三つの余りものという意味だ」

「余りもの？」

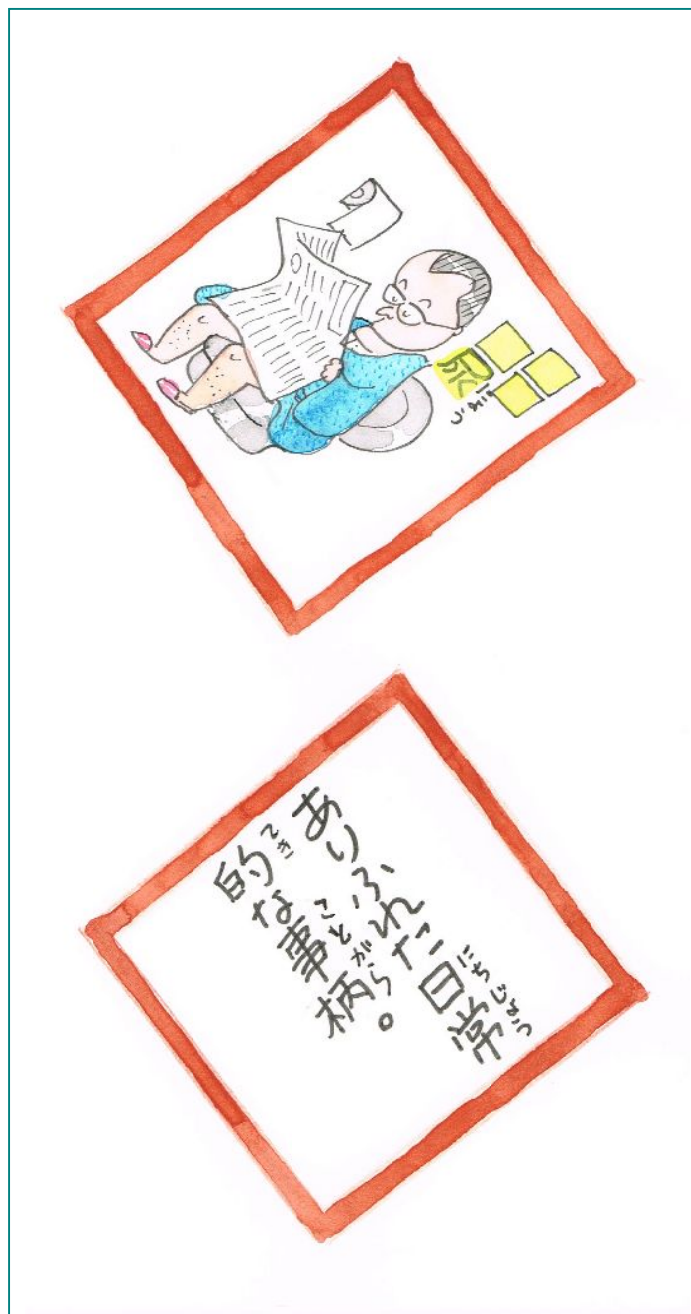
「その三余は、ゆっくり読書をするのに適しているから『読書三余』という。この三余にママを加えると『四余』だ」

「ママは余りものだったの？」

「わしが拾ってやったのだ」



# 今週の問題



□の中に漢字を埋めて  
四字熟語を完成させてください。